2006年9月期中間決算説明会

長谷川香料株式会社

2006年5月22日

このプレゼンテーション資料は、２００６年５月１９日現在のデータに基づき、今後の経営計画及び2006年９月期中間連結決算の業績に関する情報の提供を目的に作成されております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬につきましては、その責めを負いかねますのでご了承下さい。

目 次

中間連結決算の概要

前期中間実績及び当期中間予想との比較・・・・・・・・・5
損益計算書の主な増減要因
売上高・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
売上原価・売上総利益・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
販売費及び一般管理費・営業利益・・・・・・・・・・・・・9
経常利益・中間純利益・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
貸借対照表の主な増減要因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
キャッシュ・フロー計算書の主な増減要因・・・・・・・・・13
設備投資額・減価償却費・研究開発費・・・・・・・・・・・ 14
通期の業績予想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

事業の概要

事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
香料業界の特性について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
国内香料市場の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
当社の国内市場占有率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
世界のトップ10香料メーカー・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

中・長期戦略

業績予想の修正について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
経営の基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
経営指標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
配当政策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
当社の強み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
中・長期の重点戦略・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
中期3ヵ年計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

（注）数字はスライド番号です。

中間連結決算の概要

前期中間実績及び当期中間予想との比較（連結）

単位：百万円

	前期中間（実績）		当期中間（予想）		当期中間（実績）		増　減			
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	前期比		予想比	
							金 額	%	金 額	%
売上高	22,354	100.0%	23,350	100.0%	22,063	100.0%	-291	-1.3%	-1,286	-5.5%
売上原価	14,578	65.2%	15,090	64.6%	14,437	65.4%	-140	-1.0%	-652	-4.3%
売上総利益	7,775	34.8%	8,260	35.4%	7,625	34.6%	-150	-1.9%	-634	-7.7%
販管費	4,923	22.0%	5,240	22.4%	5,116	23.2%	193	3.9%	-123	-2.4%
営業利益	2,852	12.8%	3,020	12.9%	2,508	11.4%	-343	-12.1%	-511	-16.9%
経常利益	2,717	12.2%	2,830	12.1%	2,434	11.0%	-282	-10.4%	-395	-14.0%
税引前中間純利益	2,692	12.0%	2,780	11.9%	2,407	10.9%	-284	-10.6%	-372	-13.4%
中間純利益	1,648	7.4%	1,680	7.2%	1,536	7.0%	-111	-6.8%	-143	-8.6%

連結売上高の主な増減要因(製品)

単位:百万円

区　　分		前中間期	当中間期	増　減	
				金額	増減率
製品	ﾌﾚｸﾞﾗﾝｽ部門	2,306	2,408	102	4.4%
	食品部門	18,150	17,972	-177	-1.0%
小　　計		20,456	20,380	-75	-0.4%
商品	ﾌﾚｸﾞﾗﾝｽ部門	327	336	9	2.9%
	食品部門	1,570	1,345	-225	-14.4%
小　　計		1,898	1,682	-215	-11.4%
合　　計		22,354	22,063	-291	-1.3%

全体の売上高は前中間期比 291百万円減少、予想比 1，286百万円未達

製品フレグランス部門

・トイレタリー製品向けの売上好調により、前中間期比 102百万円増加

製品食品部門

・一部の緑茶向け製品の減少を主因に、前中間期比 177百万円減少

連結売上高の主な増減要因(商品)

単位:百万円

区　　分		前中間期	当中間期	増　減	
				金額	増減率
製品	ﾌﾚｸﾞﾗﾝｽ部門	2,306	2,408	102	4.4%
	食品部門	18,150	17,972	-177	-1.0%
小　　計		20,456	20,380	-75	-0.4%
商品	ﾌﾚｸﾞﾗﾝｽ部門	327	336	9	2.9%
	食品部門	1,570	1,345	-225	-14.4%
小　　計		1,898	1,682	-215	-11.4%
合　　計		22,354	22,063	-291	-1.3%

商品食品部門

・フルーツ加工品の 113百万円減少を主因に前中間期比 225百万円減少

(フルーツ加工品は前中間期好調の反動減により、製品・商品合計でも前中間期比 117百万円減少)

売上原価・売上総利益の主な増減要因（連結）

単位：百万円

	前期中間（実績）		当期中間（予想）		当期中間（実績）		増　減			
	金　額	構成比	金　額	構成比	金　額	構成比	前期比		予想比	
							金　額	%	金　額	%
売上原価	14,578	65.2%	15,090	64.6%	14,437	65.4%	-140	-1.0%	-652	-4.3%
売上総利益	7,775	34.8%	8,260	35.4%	7,625	34.6%	-150	-1.9%	-634	-7.7%

売上原価

・売上原価率は当社単体では売上構成の変化を主因に０．４ポイント改善（６６．２％ → ６５．８％）するも、中国子会社で在庫評価の見直しを主因に５．０ポイント悪化（６８．７％ → ７３．７％）し、連結では前中間期比０．２ポイント、予想比０．８ポイント各々悪化

・売上原価は前中間期比１４０百万円減少、予想比６５２百万円下回った

売上総利益

・売上減少に加え、売上原価率が悪化したことから、前中間期比１５０百万円減少、予想比６３４百万円未達

販売費及び一般管理費・営業利益の主な増減要因（連結）

単位：百万円

	前期中間（実績）		当期中間（予想）		当期中間（実績）		増　減			
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	前期比		予想比	
							金 額	%	金 額	%
販管費	4,923	22.0%	5,240	22.4%	5,116	23.2%	193	3.9%	-123	-2.4%
営業利益	2,852	12.8%	3,020	12.9%	2,508	11.4%	-343	-12.1%	-511	-16.9%

販売費及び一般管理費

・研究開発費、販売手数料、旅費交通費の増加などにより、前中間期比 193百万円増加

営業利益

・販管費が増加した結果、営業利益は前中間期比 343百万円減少、予想比 511百万円未達

経常利益・中間純利益の主な増減要因（連結）

単位：百万円

	前期中間（実績）		当期中間（予想）		当期中間（実績）		増　減			
							前期比		予想比	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	%	金 額	%
経常利益	2,717	12.2%	2,830	12.1%	2,434	11.0%	-282	-10.4%	-395	-14.0%
税引前中間純利益	2,692	12.0%	2,780	11.9%	2,407	10.9%	-284	-10.6%	-372	-13.4%
中間純利益	1,648	7.4%	1,680	7.2%	1,536	7.0%	-111	-6.8%	-143	-8.6%

経常利益

・営業外収益が前中間期比 50百万円増加、他方、営業外費用が前中間期比 10百万円減少
収支差引後、経常利益は前中間期比 282百万円減少、予想比 395百万円未達

中間純利益

・引当金戻入益などあり、特別利益が前中間期比 18百万円増加。他方、固定資産廃棄が
20百万円増加

・税引前中間純利益は 2，407百万円と前中間期比 284百万円減少、予想比 372百万円未達

・中間純利益は 1，536百万円と前中間期比 111百万円減少、予想比 143百万円未達

連結貸借対照表の主な増減要因(資産の部)

単位:百万円

科　目	前中間期末	当中間期末	増 減
流動資産	40,037	39,490	-546
固定資産	33,080	37,514	4,433
資産合計	73,117	77,004	3,886
流動負債	13,203	12,396	-807
固定負債	11,445	11,758	313
自己資本	48,469	52,849	4,380
負債・資本合計	73,117	77,004	3,886

流動資産:前中間期末比 546百万円減少

・売上減少により、受取手形及び売掛金が286百万円減少、ならびに棚卸資産も355百万円減少

固定資産:前中間期末比 4，433百万円増加

・深谷事業所、板倉工場他の設備投資主体に有形固定資産が 2，160百万円増加

・投資その他の資産が 1，936百万円増加
（内、株式評価益が 1，984百万円増加）

連結貸借対照表の主な増減要因(負債・資本の部)

単位:百万円

科　目	前中間期末	当中間期末	増　減
流動資産	40,037	39,490	-546
固定資産	33,080	37,514	4,433
資産合計	73,117	77,004	3,886
流動負債	13,203	12,396	-807
固定負債	11,445	11,758	313
自己資本	48,469	52,849	4,380
負債・資本合計	73,117	77,004	3,886

流動負債:前中間期末比 807百万円減少

・売上減少に伴う仕入れ抑制で、支払手形及び買掛金が 498百万円減少

固定負債:前中間期末比 313百万円増加

・繰延税金負債が 213百万円増加

・退職給付引当金が 164百万円増加

・CBの転換により社債が 100百万円減少

自己資本:前中間期末比 4，380百万円増加

・自己資本比率は 68．6%、前中間期末比2．3ポイント上昇

連結キャッシュ・フロー計算書の主な増減要因

単位：百万円

区　分	前中間期	当中間期	前 期
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,683	3,268	6,970
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,828	△ 3,935	△ 5,489
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,011	△ 1,031	△ 1,013
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 25	33	24
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,182	△ 1,664	492
現金及び現金同等物の期首残高	12,049	12,541	12,049
現金及び現金同等物の期末残高	10,866	10,876	12,541

営業活動によるキャッシュ・フロー

償却前中間純利益２，339百万円、売上債権の減少１，801百万円、棚卸資産の増加581百万円を主因に３，268百万円の収入

投資活動によるキャッシュ・フロー

深谷事業所、板倉工場の設備増強など有形固定資産の取得２，531百万円、短期有価証券投資増１，000百万円を主因に３，935百万円の支出

財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払を主因に１，031百万円の支出

以上の結果、現金及び現金同等物の当中間期末残高は期初に比べ、１，664百万円減少し、10，876百万円となった

設備投資額・減価償却費・研究開発費（実績）

単位：百万円

		年間計画	中間実績	進捗率
設備投資額	連結	6,149	3,152	51.3%
	単体	5,849	3,005	51.4%
減価償却費	連結	2,669	1,132	42.4%
	単体	2,543	1,048	41.2%
研究開発費	連結	3,108	1,538	49.5%
	単体	2,958	1,457	49.3%

通期の業績予想（連結）

単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（Ａ）	49,720	6,940	6,640	4,040
今回修正予想（Ｂ）	47,340	6,120	5,870	3,665
増減額（Ｂ－Ａ）	△2,380	△820	△770	△375
増減率（%）	△4.8%	△11.8%	△11.6%	△9.3%
前期実績（平成17年９月期）	47,752	6,845	6,618	3,882
対前期実績増減率（%）	△0.9%	△10.6%	△11.3%	△5.6%

通期の業績予想（単体）

単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（Ａ）	46,900	6,480	6,160	3,650
今回修正予想（Ｂ）	44,270	5,660	5,470	3,290
増減額（Ｂ－Ａ）	△2,630	△820	△690	△360
増減率（%）	△5.6%	△12.7%	△11.2%	△9.9%
前期実績（平成17年９月期）	45,570	6,344	6,137	3,524
対前期実績増減率（%）	△2.9%	△10.8%	△10.9%	△6.6%

事業の概要

事業の概要 ①

製品	フレグランス部門 香粧品香料などの製造・販売	10.9%
	食品部門 ・食品香料 ・シーズニング ・エキストラクト ・加工食品素材 ・フルーツ加工品 （子会社・関連会社で製造） ・天然色素 などの製造・販売	81.5%
商品	フレグランス部門	1.5%
	食品部門 （委託製造のフルーツ加工品を含む）	6.1%

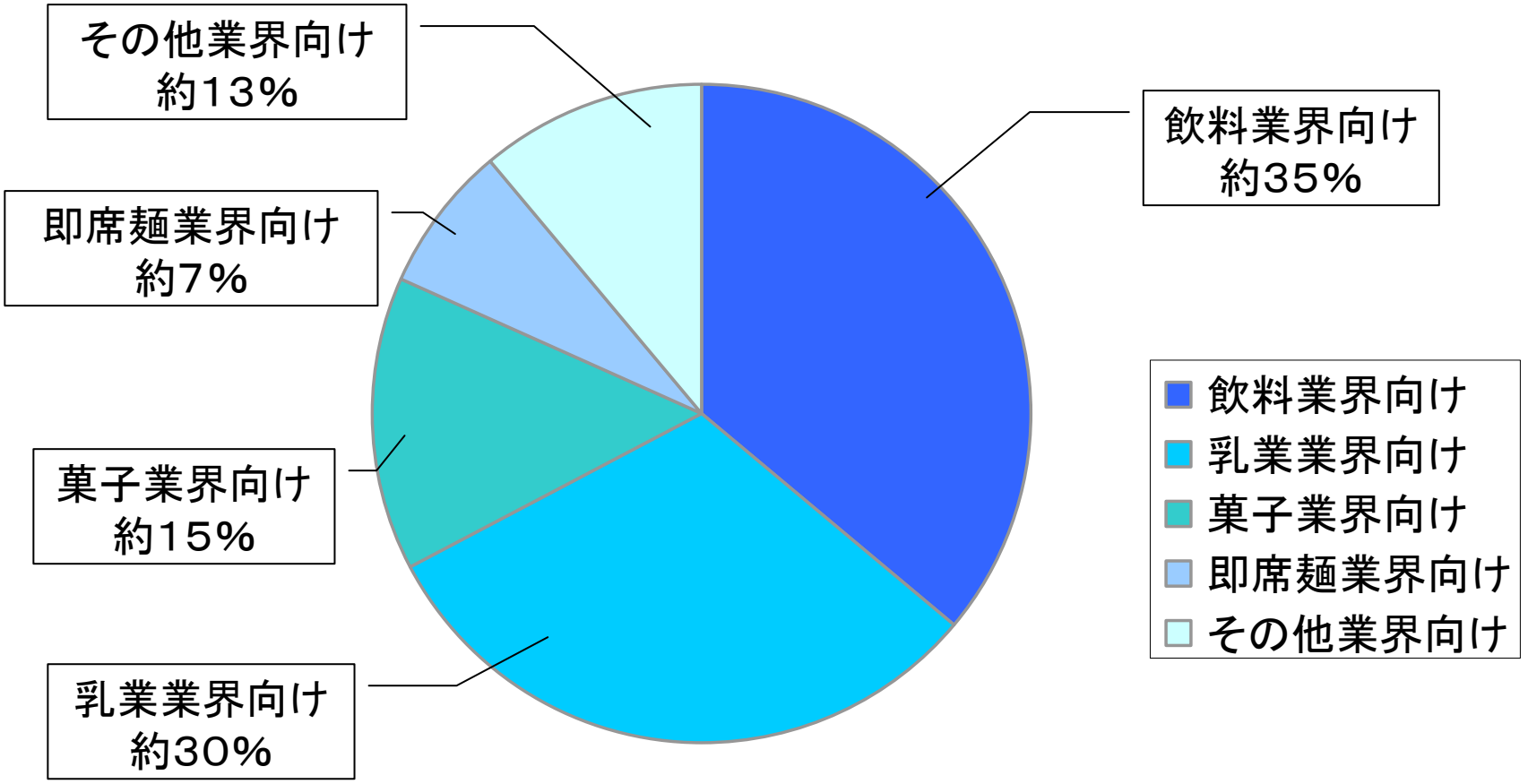
コスメティックス、トイレタリー製品、ハウスホールド製品などに使用

飲料、菓子、スナック、スープ、デザート、冷菓などに使用

フルーツ加工品の製品・商品合計
3，681百万円（構成比16．7%）

（注）%は06年9月期中間連結売上高に対する売上構成

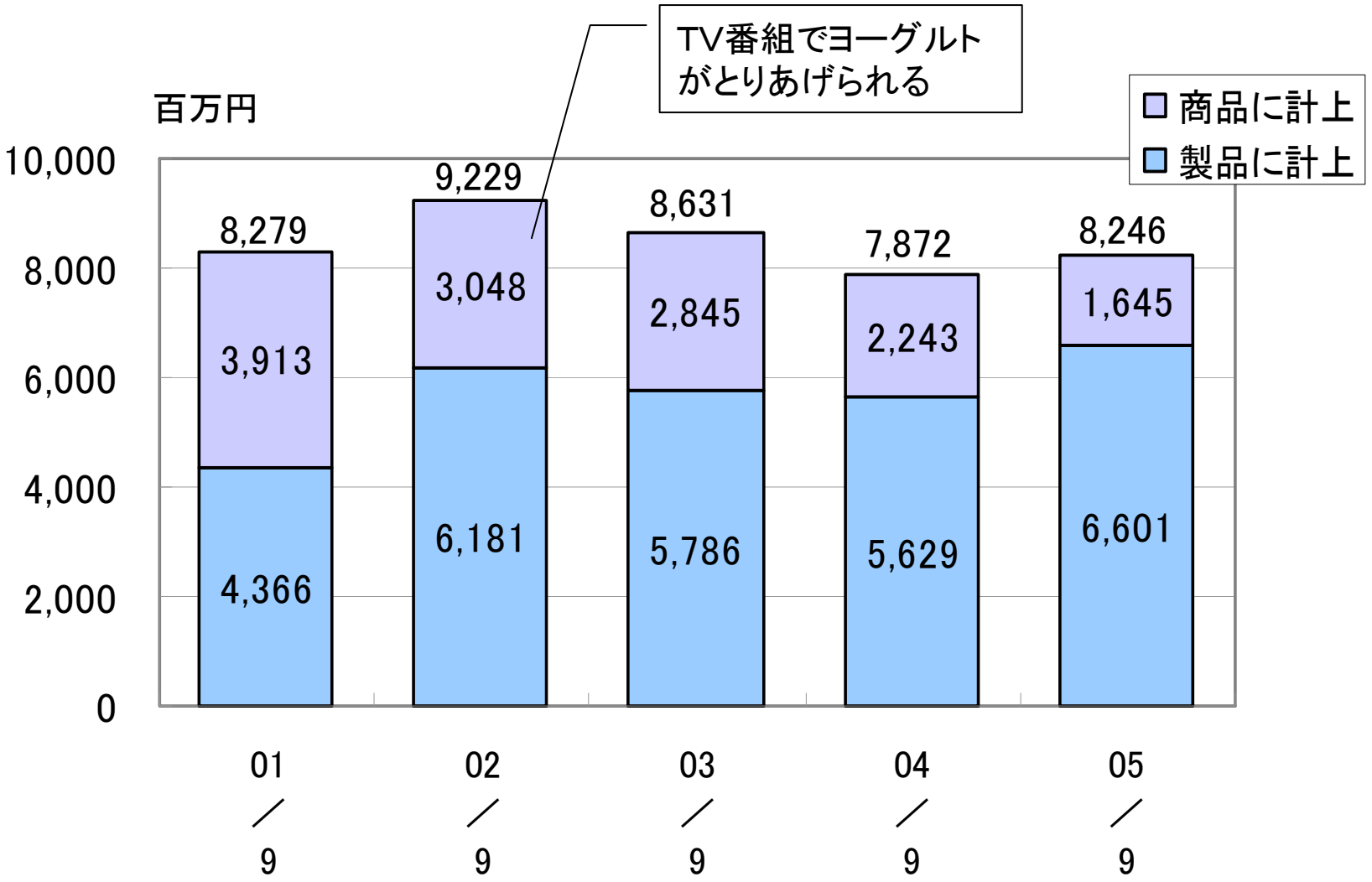
食品部門の売上高の業界別シェア (参考)



（注）業界別区分が可能な得意先の売上高合計を100として算出した参考データです。

事業の概要 ③

フルーツ加工品の売上推移



長谷川香料株式会社

香料業界の特性について

■高い参入障壁

・市場規模としては特に大きくない

・大きな設備投資と研究開発費

・品質保証体制確立の必要性

■熾烈な同業者間の競争

・国内市場はフレグランスは横ばい、フレーバーは加工食品の開発に伴う安定成長

・厳しい技術開発競争

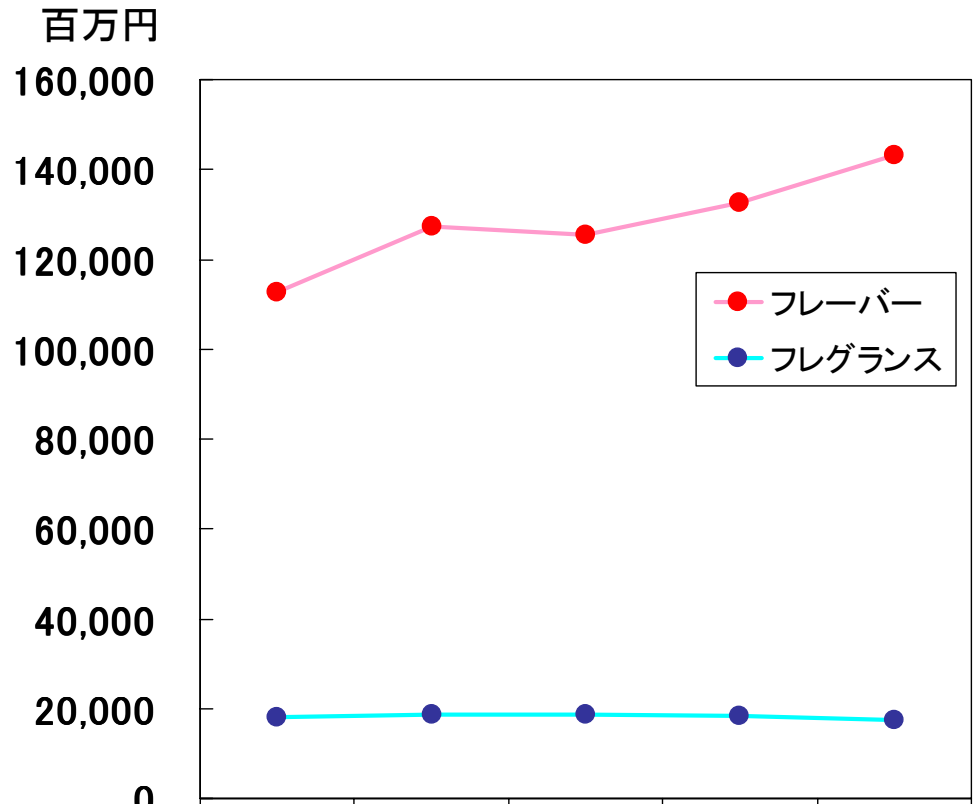
■厳しいユーザーとの交渉

・市場の安定化に伴う最終製品の競争激化

・ユーザーのコスト意識の徹底

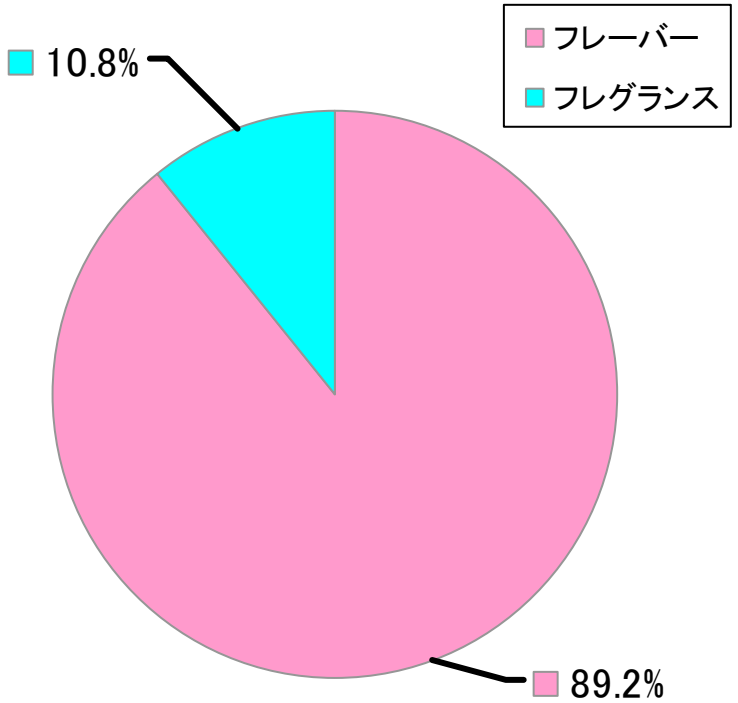
国内香料市場の動向

過去5年間の生産金額



	2001	2002	2003	2004	2005
フレーバー	112,596	127,444	125,445	132,555	143,227
フレグランス	18,060	18,815	18,784	18,474	17,324
合　計	130,656	146,259	144,229	151,029	160,551

2005年度の構成比

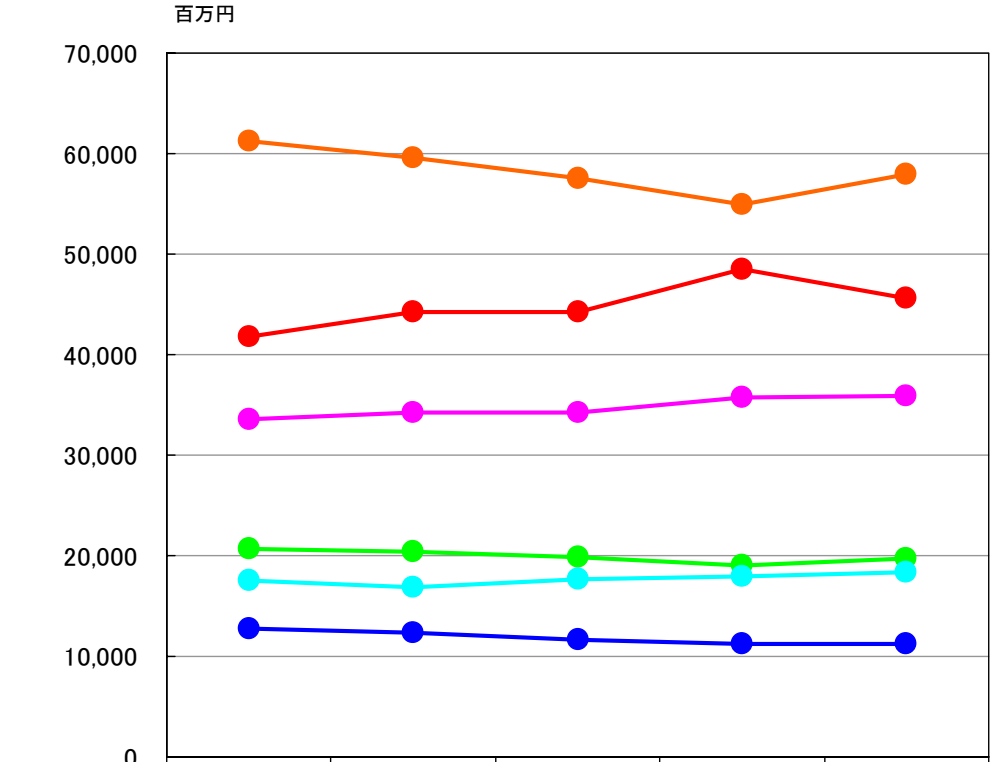


出典：日本香料工業会会報

長谷川香料株式会社

当社の国内市場占有率

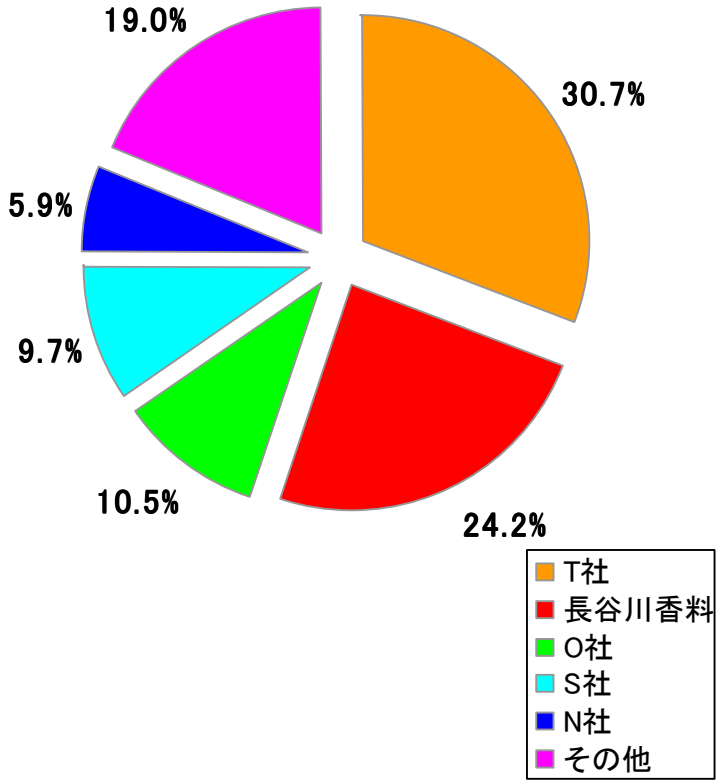
過去5年間の売上高（単体）推移



	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
T社	61,177	59,616	57,531	54,994	57,894
長谷川香料	41,759	44,234	44,239	48,515	45,570
O社	20,652	20,444	19,883	18,986	19,721
S社	17,535	16,812	17,606	17,890	18,295
N社	12,683	12,261	11,694	11,213	11,205
その他	33,594	34,268	34,265	35,750	35,870

当社シェア	22.3%	23.6%	23.7%	25.9%	24.2%

2005年度シェア



注：　民間調査機関の調査資料に基づき、市場占有率は、上位10社の単体売上高の合計を100として算出しています。

長谷川香料株式会社

世界のトップ10香料メーカー

百万ドル

	会 社 名	国　名	2004年売上高	シェア
1	Givaudan	スイス	2,346	13.3%
2	IFF	米国	2,033	11.5%
3	Firmenich	スイス	1,734	9.8%
4	Symrise	ドイツ	1,540	8.7%
5	Quest	オランダ	1,101	6.2%
6	高砂香料	日本	985	5.6%
7	長谷川香料	日本	490	2.8%
8	Sensient Flavors	米国	484	2.7%
9	Danisco	デンマーク	345	2.0%
9	Mane SA	フランス	345	2.0%

注：1．シェアは2004年の世界の香料販売額を176億ドルとして推計

2．1$≒102．7円

出典: Leffingwell & Associates発表資料
http://www.leffingwell.com/top_10.htm

中・長期戦略

業績予想の修正について

単位:百万円

	前回発表予想 (平成17年11月24日発表)	今回修正予想 (平成18年5月19日発表)	増 減	
			金 額	%
売上高	49,720	47,340	-2,380	-4.8
営業利益	6,940	6,120	-820	-11.8
経常利益	6,640	5,870	-770	-11.6
当期純利益	4,040	3,665	-375	-9.3

経営の基本的な考え方

・「技術立社」の社是に基づく高品質・高付加価値製品の開発

・総合的な品質管理体制の構築

・効率的生産体制の確立

・グローバル化の推進

・ステークホルダーの重視

経営指標

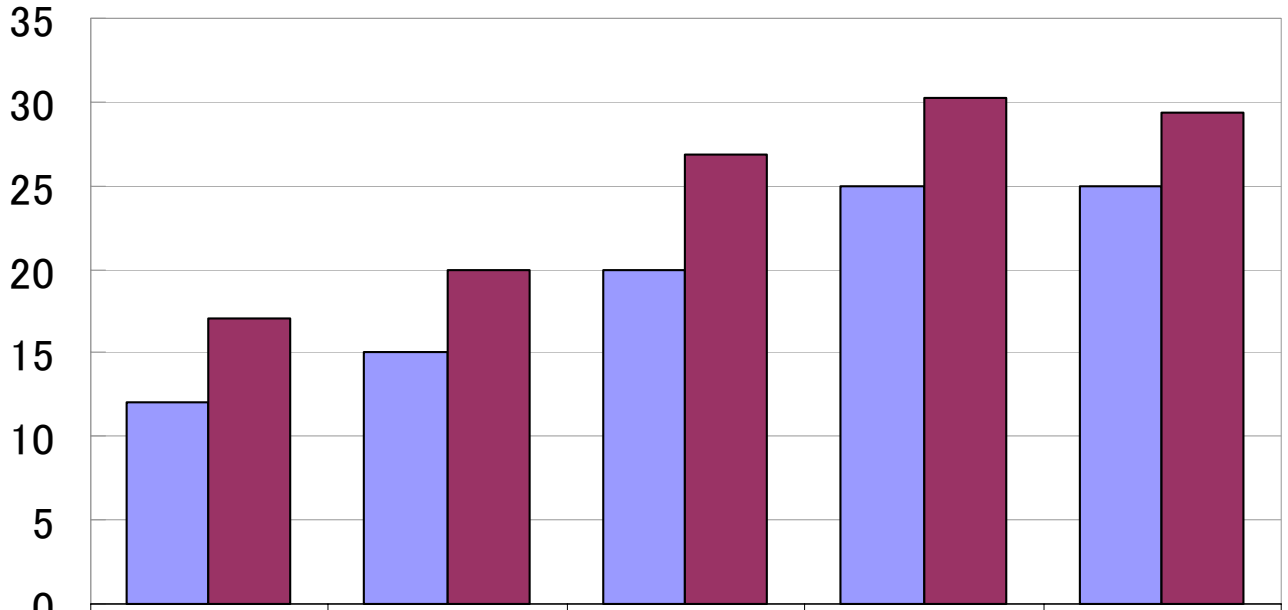
1. 連結売上高伸長率	3．0%以上
2. 連結売上高営業利益率	14．0%以上
3. 連結売上高経常利益率	13．0%以上
4. 連結ROE	8．0%以上

当社グループが持続的･安定的な発展を達成するために
必要かつ可能な範囲を意識して設定

配当政策

配当政策の基本方針

経営基盤のより一層の強化と今後の事業展開のために必要な内部留保を確保しつつ、株主の皆様へ業績に応じた利益還元を図るため、単体ベースで配当性向３０％程度を目処とする方針。



	'01/9	'02/9	'03/9	'04/9	'05/9
1株当たり配当額(円)	12	15	20	25	25
配当性向(%)	17.0	19.9	26.8	30.2	29.3

長谷川香料株式会社

当社の強み

■国内顧客との関係

・食品･香粧品業界の主要会社と取引関係がある

■研究開発

・顧客の多様なニーズに対応可能な研究開発力

	03 / 9	04 / 9	05 / 9	06 / 3
研究開発費 （百万円）	2,812	2,882	3,016	1,538
売上高に占める比率 （%）	6.1	5.7	6.3	7.0
研究員の数 （人）	221	226	234	240
従業員に占める比率 （%）	22.8	23.0	23.2	23.9

※上記は連結のデータです。

■品質保証

・社長直轄の品質保証体制

・従業員の10%が品質保証関連業務に従事

・品質管理センター棟の建設による深谷事業所の品質管理機能の統合

中・長期の重点戦略 ①

1. 研究・技術開発力の強化

2. 深谷事業所・板倉工場ゾーン化計画の推進

3. 生産の合理化・効率化

4. 新基幹業務システムの導入

5. グローバル化の推進

1．研究・技術開発力の強化

・国内ではフレーバー研究所、フレグランス研究所、技術研究所の連携強化により、技術情報の交換、共同研究テーマの推進を図るとともに、日本、米国、中国の3拠点の技術交流を活発化し、グローバルな視点に立った研究開発を行います。

・育成カリキュラムの充実、国内外の外部機関への研修派遣、研究者の能力の厳密な評価、クリエーティブな研究の推進等により、優秀な研究者の育成に努めます。

研究開発費
　前期実績：　3，016百万円（対売上高　6．3%）
　今期計画：　3，108百万円（対売上高　6．6%）

研究員の人数 （2006年3月末現在）
　240人　全グループ社員の23．9%

2. 深谷事業所・板倉工場ゾーン化計画の推進

深谷事業所・板倉工場の製造設備を整理統合し、製造工程別に区画を定めて再配置（ゾーン化）を行い、合理的かつ効率的な生産体制を確立します。

深谷事業所（敷地面積 69,000㎡）

板倉工場（敷地面積 171,000㎡）

深谷事業所・板倉工場に毎期50－60億円の設備投資を計画

3. 生産の合理化・効率化

・生産の自動化・省力化の推進

・製造方法の改良による生産の効率化

・最新設備の導入による生産技術の向上

4. 新基幹業務システムの導入

■ERP導入を含む、新基幹業務システムの構築に取り組み中です。

■経営情報基盤整備、顧客サービス向上、業務効率化、情報システム体制強化などさまざまな効果を目指しております。

導入目的	
	全社的な情報基盤の整備と戦略的活用の推進
	業務の見直し(BPR)、電子化、ペーパレス化による効率化とスピードアップの実現
	食の安全、トレーサビリティ強化、国際競争激化等経営環境変化への迅速な対応
	製造設備、製造プロセスの自動化・近代化への対応
	情報システムのサポート体制と発展性・拡張性の強化

稼働予定時期: 2006年10月

構築過程における、業務見直し、改善作業も重要目的

5. グローバル化の推進

1978年	T. HASEGAWA U.S.A., INC.設立
1990年	シンガポール現法設立
1991年	香港支店開設
1997年	上海駐在員事務所開設
2000年	長谷川香料(上海)有限公司設立
2001年	上海工場本稼働開始
2003年	タイ国現法設立
2004年	シンガポール現法閉鎖、香港支店閉鎖、 上海現法の広州事務所を開設

T. HASEGAWA U.S.A. ,INC.

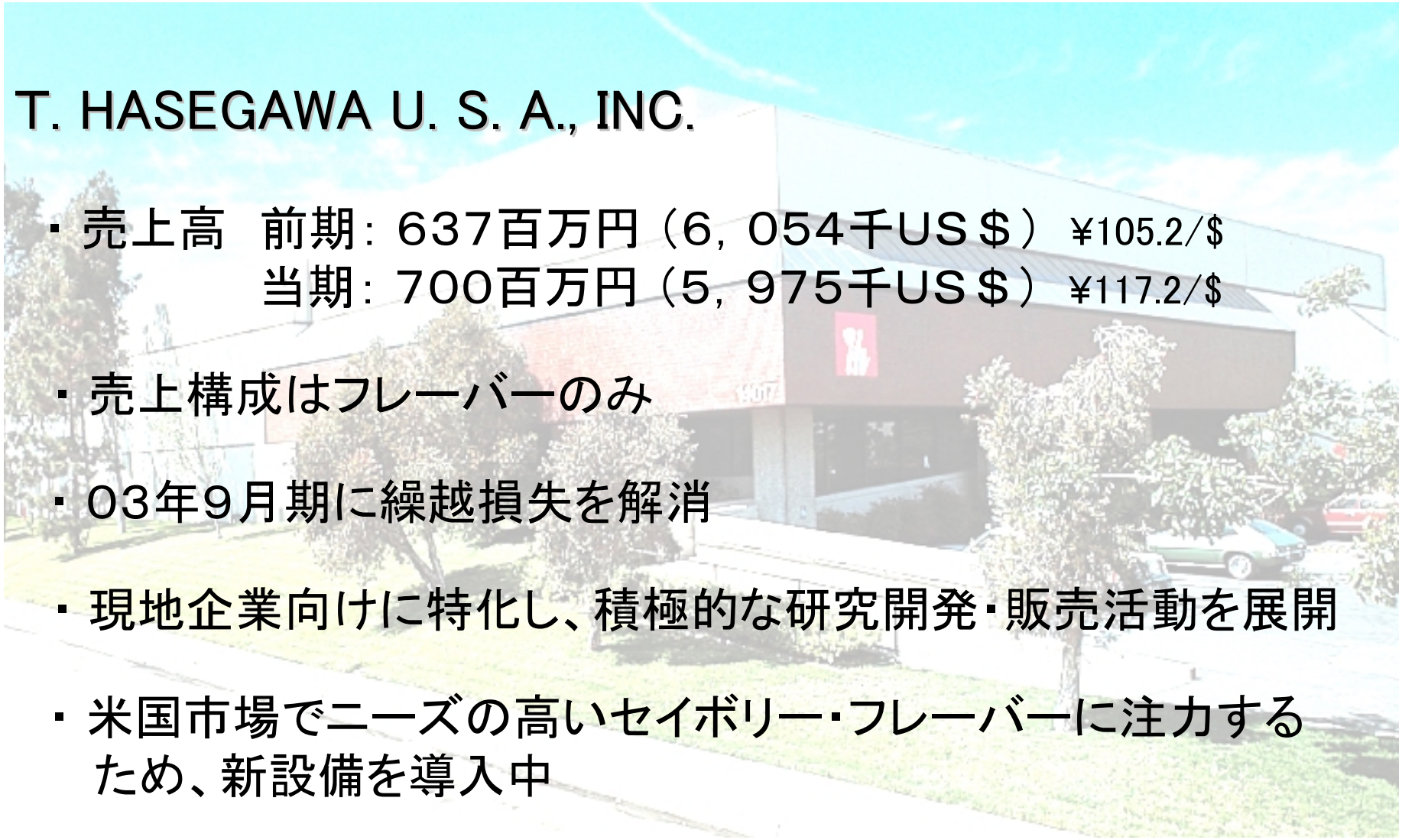
長谷川香料(上海)有限公司

中・長期の重点戦略 ⑦

長谷川香料(上海)有限公司

- 売上高　前中間期:　　851百万円（67百万元） ¥12.7/元
  当中間期:　1，233百万円（84百万元） ¥14.5/元
- 当期の売上高は前中間期比40%以上の増加(円換算)
- 売上構成はフレーバー：フレグランス ＝ 7：3
- 販売先はフレーバーは現地・国際・日系企業、フレグランスは
  は現地・日系企業中心
- 第2生産拠点の候補地について現在交渉中

中・長期の重点戦略 ⑧



T. HASEGAWA U. S. A., INC.

- 売上高　前期：637百万円（6，054千US＄）　¥105.2/$
  当期：700百万円（5，975千US＄）　¥117.2/$
- 売上構成はフレーバーのみ
- 03年9月期に繰越損失を解消
- 現地企業向けに特化し、積極的な研究開発・販売活動を展開
- 米国市場でニーズの高いセイボリー・フレーバーに注力するため、新設備を導入中

中期3ヵ年計画（連結）

単位：百万円

	'05 / 9（実績）			'06 / 9（修正計画）			'07 / 9（計画）			'08 / 9（計画）		
	金 額	構成比	前期比	金 額	構成比	前期比	金 額	構成比	前期比	金 額	構成比	前期比
売上高	47,752	100.0%	-5.2%	47,340	100.0%	-0.9%	51,380	100.0%	8.5%	53,260	100.0%	3.7%
売上原価	30,876	64.7%	-7.5%	30,760	65.0%	-0.4%	33,010	64.2%	7.3%	34,250	64.3%	3.8%
売上総利益	16,876	35.3%	-0.7%	16,580	35.0%	-1.8%	18,370	35.8%	10.8%	19,010	35.7%	3.5%
販売費及び一般管理費	10,030	21.0%	-0.3%	10,460	22.1%	4.3%	11,070	21.5%	5.8%	11,450	21.5%	3.4%
営業利益	6,845	14.3%	-1.3%	6,120	12.9%	-10.6%	7,300	14.2%	19.3%	7,560	14.2%	3.6%
経常利益	6,618	13.9%	3.1%	5,870	12.4%	-11.3%	6,920	13.5%	17.9%	7,210	13.5%	4.2%
税引前当期純利益	6,434	13.5%	3.5%	5,760	12.2%	-10.5%	6,790	13.2%	17.9%	7,070	13.3%	4.1%
当期純利益	3,882	8.1%	7.2%	3,665	7.7%	-5.6%	4,210	8.2%	14.9%	4,380	8.2%	4.0%

（注）07年９月期及び08年９月期の計画は、前期の決算説明会において発表した数値を参考値としてそのまま掲載しております。
当社の中期3ヵ年計画は毎期洗替えにて策定しており、新しい計画は今期の決算説明会において公表する予定です。

END